

令和元年6月5日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2018

課題番号：25870535

研究課題名(和文) 住民組織の発展に結合型・橋渡し型ソーシャルキャピタルは影響しているのだろうか？

研究課題名(英文) Have bonding social capital and bridging social capital been affecting the development of community organizations?

研究代表者

松本 千晴 (Matsumoto, Chiharu)

熊本大学・大学院生命科学研究部(保)・助教

研究者番号：30452874

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、住民組織の発展と、市町村単位の地域レベルソーシャル・キャピタル(Social Capital：以下、SCと記す。)、組織内メンバー間での結合型SC、他組織との橋渡し型SCとの関連性を明らかにすることであった。住民組織12グループを対象にインタビュー調査等を実施し、住民組織の発展13項目、結合型SC11項目、橋渡し型SC18項目の「住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」案を作成した。本研究は、研究期間中に研究目的を達成できなかった。よって、今後、尺度を開発し研究目的を達成する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後も研究を継続し、「住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」を開発することにより、住民組織の発展と結合型SC、橋渡し型SC、市町村レベルSCの関連を明らかにすることで、住民組織が地域で発展していくうえでの、住民組織の課題と地域の課題を見出すことができる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study to clarify the relationship between the development of community organizations, regional level social capital of municipal unit, bonding social capital among members in the organization, and bridging social capital with other organizations. An interview survey conducted on 12 groups of community organizations, and I drew up the scale "the development of community organizations and social capital metrics". The scale consist of 13 items of the development of community organizations, 11 items of bonding social capital, and 18 items of bridging social capital. This study did not achieve the research purpose during the study period. Therefore, it is necessary to develop the scale in the future.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：住民組織 地域 ソーシャル・キャピタル 結合型ソーシャル・キャピタル 橋渡し型ソーシャル・キャピタル

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

現在、わが国の住民ニーズや健康課題は多様化・複雑化し、行政のみの対応には限界がみられており、住民も行政と協働で地域をつくっていく主体的な存在となっていくことが求められている。2012(平成24)年7月、厚生労働省は、「地域保健対策の推進に関する基本的な指針の一部改正について」において、「地域に根ざした信頼や互酬性の社会規範、ネットワークといった社会関係資本等(ソーシャル・キャピタル(Social Capital):以下、SCと記す。)の核となる人材の育成や自助グループなどへの支援および活用を通じて地域住民の共助活動の活性化を図ることが重要である」と示している。

地域には、健康づくりに関係する多くの住民組織が存在するが、この住民組織も、SCの醸成に大きく寄与するものと考えられる。小山(2009)は、日本の住民組織を組織形態の視点から、委員型・地縁型・当事者型に大別している。しかし、組織形態によって、行政主導による「やらされ感」、加入者の減少、運営等のノウハウの蓄積ができていない、会員の高齢化など、様々な課題を抱えている(2015,地域保健対策におけるソーシャル・キャピタルの活用のあり方に関する研究班)。SCは、その性質から、結合型SCと橋渡し型SCに分けることができる(ロバート・D・パトナム,2006)。結合型SCは、組織の内部における人と人との同質的なつながりで、内部の信頼や結束を生むものであり、橋渡し型SCは、異なる組織間における異質な人や組織を結びつけるネットワークで、協働による資源交換と知識の創造が期待できるものである。

以上のことより、住民組織においては、その発展に、所属する市町村単位の地域レベルSCや組織内メンバー間での結合型SC、他組織との橋渡し型SCが影響していることが考えられた。

2. 研究の目的

住民組織の組織形態(委員型・地縁型・当事者型)別に、住民組織の発展と、3つのSC(組織が属する市町村単位の地域レベルSC、組織内メンバー間での結合型SC、他組織との橋渡し型SC)との関連性を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 質的記述的研究

A県内にある4市町村の住民組織(委員型・地縁型・当事者型)の代表者(もしくはそれに準ずる者)のうち本研究の主旨・方法に同意が得られた12グループを対象に半構成的面接調査を行った。質問内容は、住民組織が組織の発展を感じる場面、組織内のメンバーに対する信頼や互酬性(結合型SC)を感じる場面、他組織に対する信頼や互酬性(橋渡し型SC)を感じる場面についてであった。面接は研究対象者が指定した場所で行い、対象者の了承を得て内容を録音した。

分析方法には、質的帰納的方法を用いた。録音内容から逐語録を作成し、組織の発展および組織内のメンバーに対する信頼や互酬性(結合型SC)、他組織に対する信頼や互酬性(橋渡し型SC)を感じていると判断できる部分を抜き出してコード化し、内容の共通点・相違点を踏まえながら、サブカテゴリー化し、さらにカテゴリー化した。

その分析結果を元に、住民組織における組織の発展および結合型SC、橋渡し型SCを測定する「試作版:住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」を作成した。

(2)「試作版:住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」の内容妥当性の検討

「試作版:住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」の洗練化のため、公衆衛生看護の研究者もしくは実践者の計5名を対象に内容妥当性の検討を行った。

研究対象者には、「試作版:住民組織の発展およびSCの評価尺度」を構成する3つの概念(住民組織の発展、結合型SC、橋渡し型SC)の定義を提示し、各構成項目を見て、それがその概念を構成する項目として「適切」か「不適切」かを、回答してもらった。「不適切」と回答した項目にはその理由と不足している項目を自由記述してもらった。

4. 研究成果

(1) 質的記述的研究

対象者および組織の概要

研究対象となった住民組織は、委員会型(食生活改善推進員4グループ、健康づくり推進1グループ)、地縁型(老人クラブ連合会4グループ)、当事者型(子育てサークル2グループ、子育て支援グループ1グループ)であった。

委員会型は、活動年数 最長43年、最短6年で、メンバー数最少30名、最多176名であった。女性の会長4名(食生活改善推進員)と男性の構成員1名(健康づくり推進員)が回答した。地縁型は、活動年数最長47年、最短7年で、メンバー数最少約1,000名、最多約6,000名であった。男性の会長4名と女性の副部長2名が回答した。当事者型は、活動年数最長11年、最短5年で、子育てサークルのメンバー数は10組と30名であり、子育て支援グループは6名のスタッフで活動していた。女性の代表者4名とスタッフ1名が回答した。

組織の発展

組織の発展は、4つのカテゴリ【組織の知名度があがる】【メンバーの数や多様性が増す】【活動領域が広がる】【活動が普及する】と12のサブカテゴリが抽出された。【組織の知名度があがる】は、組織名を知っている人が増える と 活動内容を知っている人が増える の2つのサブカテゴリで説明された。【メンバーの数や多様性が増す】は、メンバー数が増える 特定の年代に偏らず、障がい・子どもの有無なども関係なく、メンバーが所属する どの地区にもメンバーが存在する の3つのサブカテゴリで説明された。【活動領域が広がる】は、住民から活動の依頼がくる 活動の参加者が増える 協力者・協力組織が増える 新しい活動ができる の4つのサブカテゴリで説明された。【活動が普及する】は 活動に対する住民からの好反応がある 活動以外の場面でも住民と声をかけあう関係になる 地域の中で活動した成果が表れる の3つのサブカテゴリで説明された。

結合型 SC

結合型 SC は、4つのカテゴリ【メンバー間に信頼関係がある】【メンバー間に協力体制がある】【メンバー間に相談体制がある】【メンバー間に顔の見える関係がある】と9のサブカテゴリが抽出された。【メンバー間に信頼関係がある】は メンバー間に信頼関係がある の1つのサブカテゴリで説明された。【メンバー間に協力体制がある】は、メンバーが主体的に協力する メンバー同士の意思疎通が円滑である メンバーが活動しやすい体制がある の3つのサブカテゴリで説明された。【メンバー間に相談体制がある】は、メンバー間で話し合っ活動を進める メンバー間で情報を共有する メンバー間で自身の悩みを相談し合う の3つのサブカテゴリで説明された。【メンバー間に顔の見える関係がある】は、メンバー間に活動以外でも交流がある メンバー間に地区・世代・性別を超えた交流がある の3つのサブカテゴリで説明された。

橋渡し型 SC

橋渡し型 SC は、4つのカテゴリ【他組織・他者と交流を持つ】【他組織・他者と協力関係を築く】【他組織とネットワークを構築する】【地域に貢献する】と、19のサブカテゴリが抽出された。【他組織・他者と交流を持つ】は、地域の障がい者（グループ）と交流を持つ 地域の子どもや高齢者と交流を持つ 他市町村の同じ種類の住民組織と交流を持つ の3つのサブカテゴリで説明された。【他組織・他者と協力関係を築く】は、他組織・他者に相談をする 他組織の活動に協力する 他組織と対等な関係で活動ができる などの11のサブカテゴリで説明された。【他組織とネットワークを構築する】は、地域の課題を解決するために他組織とネットワークを築く 主導者と理解者の存在によりネットワークを構築できる の2つのサブカテゴリで説明された。【地域に貢献する】は、地域の祭りや運動会などの行事に参加する 地域の環境美化等のボランティア活動を行う 地域の子どもや高齢者に対して、見守りや料理教室などの支援を行う の3つのサブカテゴリで説明された。

この分析結果のサブカテゴリをベースにして、住民組織における組織の発展および結合型 SC、橋渡し型 SC を測定する「試作版：住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」を作成した。

(2) 研究2：「試作版：住民組織の発展およびソーシャル・キャピタルの測定尺度」の内容妥当性の検討

公衆衛生看護の研究者もしくは実践者の計5名を対象に内容妥当性の検討を実施した。その結果、橋渡し型 SC の1項目のみ、過半数が「不適切」と回答したため、その項目を削除した。尺度は、住民組織の発展13項目、結合型 SC11項目、橋渡し型 SC18項目に構成された。

本研究は、研究計画を完遂できず、尺度の試作版の作成までで終了となったため、研究目的を達成できていない。今後は、尺度の表面妥当性を検討した後、住民組織のメンバーを対象とした量的研究による尺度の開発を進め、組織の発展、結合型 SC、橋渡し型 SC の関連性を明らかにしていく必要がある。

引用文献

- ロバート・D・パットナム『孤独なボウリング 米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房，2006年，21頁。
小山修「住民組織の活動とその支援」『標準保健師講座 地域看護技術』第2版，医学書院，2009年，224-227頁。

平成 26 年度厚生労働科学研究費助成金 健康安全・危機管理対策総合研究事業、『地域保健対策におけるソーシャル・キャピタルの活用のあり方に関する研究班，住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き』2015 年 3 月，22 頁。

5．主な発表論文等

特記事項なし

6．研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者 なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。